

令和7年度

学 校 評 価 表

(中間評価 ・ 最終評価)

東広島市立志和小学校・中学校

学校教育目標	夢と志をもち 果敢に挑戦し 自己実現する児童生徒の育成	経営理念	【ミッション】「地域とともに未来を創る 一学校での学びを地域社会に結びつける―」 【ビジョン】○課題に主体的に向き合い、解決に向けた行動をとることのできる人材の育成。 ○変化の大きい世界の中で状況を把握し、目標を持ち、他者と協力して課題解決に取り組むことのできる人材の育成。
--------	-----------------------------	------	---

評価計画							自己評価				改善方策	学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)			
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度 (月)	評価 (月)	結果と課題の分析 (月)	改善方策 (月)	評価 (月)	コメント (月)	
							10月	2月							
確かな学力（学習活動）	1	学びに向かう姿勢を整え、育てたい資質能力“推論する力”の育成を図る。 〈重点〉 ・小中一貫教育による学びの充実 ・地域貢献・地域活性化プロジェクト	小中一貫・接続教育を推進し、児童生徒が安心して学習できる教育環境を整える。	・学力を向上させるため、高学年を中心に、理科・英語・音楽の乗入授業を行い、児童の状況を多面的に把握し指導に生かす。 ・小中の授業交流を積極的に行う。	・単元テストにおいて目標達成到達率を上回る児童を80%以上にする。	80%									
					・半期に1回は、小中の授業をお互いの教員が見て回る。	100%									
					・板書のルールを小中でそろえる。	100%									
			eSTEAM教育を推進し、児童生徒の「推論する力」を各教科で育成する。		・推論する力に関する検証問題を実施し、各学年の昨年度の正答率を上回る。	80%									
				・算数・数学、生活科、理科を中核とし、「推論する力」を育成する授業づくりを小中合同で開発する。 ・地域をフィールドとし、推論する力を発揮できるカリキュラムを開発する。	・各学年で地域をフィールドとしたカリキュラムを開発し、児童生徒質問紙において「地域貢献したい」と回答する児童生徒の割合を85%以上にする。	85%									
					・各教科で志和中小学校版eSTEAM教育を意識したカリキュラムを開発し、実践する。	100%									
	ICT活用の推進を図り、児童生徒の学習意欲と興味・関心を高める。	・各教科の特性に応じて、効果的にICTを活用する。	・児童生徒質問紙、教職員質問紙において、「ICTを積極的に学習に使っている」と回答する児童生徒及び教職員の割合を90%以上にする。	90%											
豊かな（心・生徒指導や導）な体	2	自立・自律し、自他のことを大切にし、自己の健康と体力について理解して、高めていこうとする児童生徒を育成する。 〈重点〉 ・SSR、通級指導教室の効果的運用 ・部活動の地域展開 ・小中合同スポーツ大会等の異年齢交流行事	児童生徒の自己有用感を高め、アイデンティティの確立を図る。	・児童生徒の主体性と自発性を育てるために、児童会や生徒会活動をはじめとした活動を充実させる。 ・児童生徒の自己肯定感を高めるために、スモールステップで成功体験を積み重ねさせるとともに、適切に評価する。	・児童生徒質問紙において、「集団（学校、学級、部活動、地域など）のために自分の力を使ったり、人と協力したりして取り組んだ」と回答する児童生徒の割合を85%以上にする。	85%									
			自己の健康づくりに主体的に取り組む児童生徒を育成する。	・児童生徒が自らの健やかな体作りに取り組めるようにするために、児童生徒がリズムチェック週間における自己の生活を振り返り、改善のための目標を立てる時間を設ける。	・リズムチェック週間の振り返りにおいて、「目標を達成することができた」と回答する児童生徒の割合を80%以上にする。	80%									
			安全で安心できる教育環境を整える。 ＊SSR生城山（おおぎやま）ルーム（小中）の充実（不登校児童生徒への対応）	・不登校の未然防止のため、学級における積極的生徒指導を行う。 ・児童生徒理解を深めるために、スクールカウンセラーや心のサポーター等と連携するとともに、SSRを適切に運営する。	・児童生徒質問紙において、「安心・安全に学校生活をおくることができている」と回答する児童生徒の割合を85%以上にする。	85%									
信頼される学校	3	地域とともにある学校として、信頼される学校づくりを推進する。 ・コミュニティ・スクールの運営体制の充実	コミュニティ・スクールの体制をもとに、地域連携を推進する。	・コミュニティ・ルームを拠点とした地域人材との連携や活動を実施する。	・コミュニティ・スクール推進員と地域学校協働推進員、管理職との連携を毎月1回行う。	100%									
			学校HPや学校だより等による情報発信を定期的に行う。	・学校の取組や児童生徒の活動の様子を広く発信する。	・学校だよりを毎月発行するとともに、学校HPを随時更新する。	100%									
働き方改革	4	業務改善を推進、超過勤務時間の月平均45時間以内を目指す。	働きやすい環境づくりに推進し、教職員の健康促進するとともに、働きがい、やりがい等の意識の醸成する。	・教職員の心身の状況を積極的に把握する。 ・児童生徒の学びや活動を充実させるために、目的を意識した指導を行うとともに、地域の協力ネットワークを活用する。	・学校衛生委員会において、入退校記録等に基づいた分析や教職員の心身の状況把握を行うとともに、改善に向けた検討を毎月1回行う。	100%									

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価
4...100%以上 3...90～99%達成 2...80～89%達成 1...79%以下

■学校関係者評価
A...とても適切である B...概ね適切である C...あまり適切でない D...全く適切でない (N...判定できない)